

# ミジンコのからだ

ミジンコは栄養が少ないところからたくさんあるところまで広く分布しています。世界各地の湖沼などにすんでおり、魚類のえさとなっています。エビやカニと同じなかまで甲殻類に分類されます。からだは円形または楕円形の左右2枚のかたい殻におおわれていて、脱皮を繰り返して成長しています。

## 1) からだの色

からだの色は透明で心臓の動きや育房の中で動いている子ども、腸の中まで見えます。

## 2) 眼

単眼と複眼があります。複眼はクリクリとよく動きます。明るさを感じることはできませんが、物の形までは見えません。

## 3) 第一触角

吻の基部には小さな第1触角があり、においなどをかぎわけます。オスの方がメスよりも大きくなっています。

## ふん 吻

口のように見えますが、実際の口はもう少し下にあります。

## だいにしよかく 第二触角

先が2つに分かれ発達しています。これを動かして水の中をとびはねるように泳ぎます。

## ちょう 腸

うねうねと動いて食物を後方に押し出します。ここで食べたものを消化します

## ふくがん 複眼

1対ある複眼は、成長に伴い左右が合わさって1つになります。

## たんがん 単眼

複眼の下に1つあります。吻の少し横にある点のようなものです。

## きょうきやく 胸脚

5対のあしにはエラがあり、ここで呼吸をしています。また、これを動かして水流を作り、流れてきた植物プランクトンをクシのような毛でこしとって食べます。

## びそう 尾爪

胴体にあって、自分で動かすことができます。種を特定するのに重要な部分です。

## こうもん 肛門

尾爪の下のほうにあります。ここからふんを出します。

## しんぞう 心臓

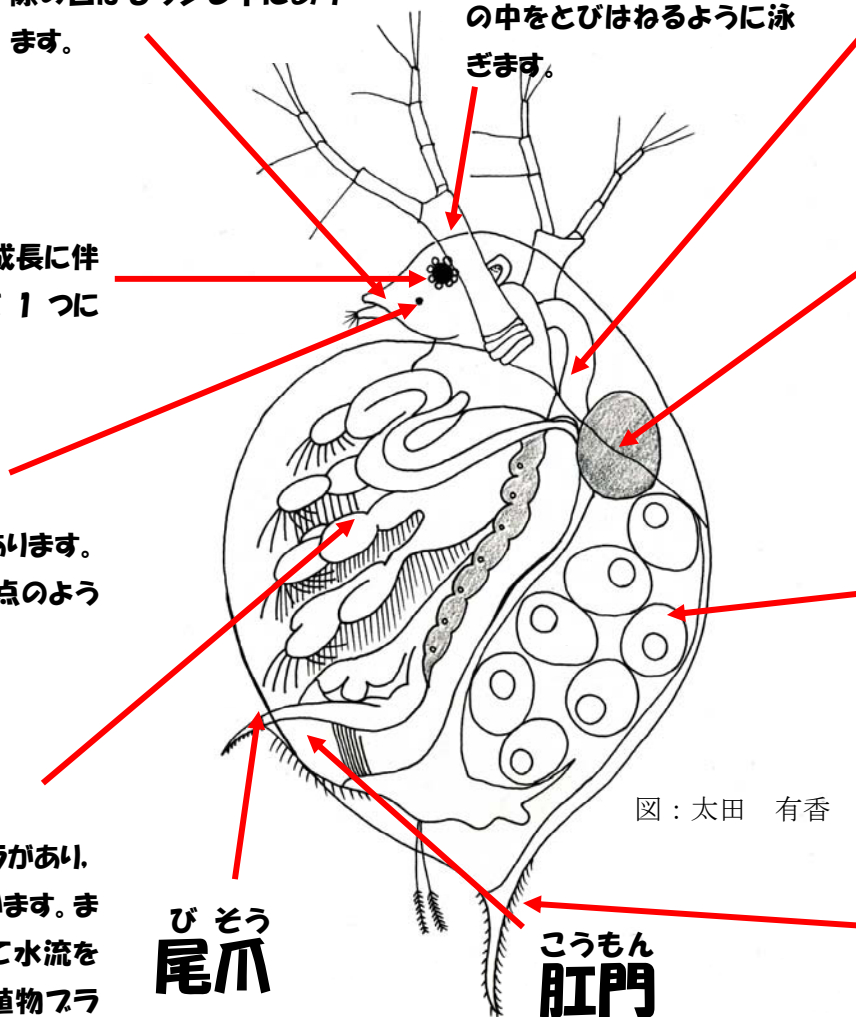
1分間に200回以上ドキドキしますが、温度が低いと少なくなります。血管はなく、細胞のすき間を血液が流れます。

## らん 卵

卵はメスの体の中でかえれます。子は親の体の外に出た後、脱皮を繰り返しながら成長します。

## かくし 殻刺

からの下部のとがったところで、自分で動かすことはできません。



図：太田 有香